

モニターレポート(2月報告)

【報告内容①】

沢海地先、満願寺水門周辺はきれいに整備されていて、この時期には珍しく降り積もった雪が情緒ある風景を見せてくれています。

しかし、季節は静かに流れているようで、最近では白鳥の姿も見られなくなりました。

そのかわり、晴れた日には各々の公園で、子供達や高齢者の方がお散歩される姿が見られるようになってまいりました。

〈事務所からのコメント〉

少しずつ春の近づく情景があちらこちらで見られるようになってきました。同時に河川敷の公園を訪れる人も多くなります。

また、釣りなどで水辺に親しむ人も徐々に増えてきます。これから雪融けが進み、阿賀野川の水量が増えてきますので、河岸では十分お気を付けください。

【報告内容②】

阿賀野川の土手沿いの道を車で走っている際、「大迎」地区の川の上にて、ちょうど飛び立とうとしている5,6羽の白鳥の群れを見ました。

その先に下流の方向へ進んでみると、「三ツ屋」の田んぼのあたりで50羽ほど白鳥がエサをついばんでいる様子が見えました。

更に下流に行き、新井郷川分水路付近では2人組の男性が釣り竿を持って歩いている様子もありました。

〈事務所からのコメント〉

大迎地区の阿賀野川には、ちょうど中州があり、そこへ多くの白鳥が飛来しています。鳥類に詳しい方のお話しでは、中州に飛来する白鳥の数は年々増えているようです。中州で羽を休めたり田んぼで餌をついばんでいる姿は、毎年見られる阿賀野川の豊かな風情となっています。

※複数のモニター報告を要約してあります。

【報告内容③】

馬下橋の周辺を咲花温泉から見たところ、堤防工事に加え河川の木々の伐採も進み、とても綺麗に見えるようになりました。

水辺プラザの雪捨て場も車が通れるようになり、川岸に出てみるとねこやなぎが今が盛りと咲いていました。

川面には水鳥が狩猟が終わったのを知ってか、いっぱい羽を休めていました。

又、白鳥が見られなくなり、代わりに利用者がゴミを置いていくため、黒いカラスが目につくようになりました。

〈事務所からのコメント〉

小松地先で実施しております築堤工事ですが、次期出水期までの完成を目指して進めております。

また、小松地区では伐採工事も行っており、川岸に繁茂している樹木を切り、水の流れの確保や、河川管理のための視認性確保も行っております。

【報告内容④】

鮭漁が現在も行われていることを知り、感動しました。鮭漁について調べると、明治時代以前には阿賀野川流域や加治川の一部で「鮭滝」という言葉が使われていましたが、現在は使われておらず、他の地域でも聞かない言葉です。滝状の所に鮭が群がる性質を利用して、人為的に鮭が群がる所を作り漁をするところを鮭滝としていました。

鮭は平均気温14℃以下の河川に上ってくる為、過去の寒冷期には北九州・紀ノ川流域までできていました。近年では太平洋側では利根川、日本海側では山口県や能登半島に鮭が大量に集まります。江戸時代には幕府への献上品ともされ各地で昭和20年まで続きました。

〈事務所からのコメント〉

鮭滝について大変よくまとまっており、参考になります。

鮭漁は阿賀野川でも昔から行われており、満願寺出張所のすぐ近くにながれている小阿賀野川には、漁協が毎年ウライを設置しています。

国でも、小阿賀野川を遡上してくる鮭の遡上を支援するために、毎年10月から12月にかけて、樋門の川裏側に角落し(せき板)を設置し、流速を弱めています。

また、上流渡場床固めでは、魚が遡上しやすいように水流を弱めるため、魚道の上流にコンクリートブロックを今年試験的に設置しました。

今後も、阿賀野川らしい豊かな河川環境となるように事業を進めてまいります。

※複数のモニター報告を要約してあります。